2024/7/28 開催　いけんひろば

～～「結婚」「子育て」したい？したくない？～

いけんのまとめ　対面回

【対面】A 班（社会人世代５名） **2**

【対面】B 班（高校生世代１名･大学生世代２名） **8**

【対面】C 班（高校生世代４名） **16**

【対面】D 班（大学生世代５名） **23**

【対面】A 班（社会人世代５名）

１．将来、結婚したり子育てしたりしたいと思っているか。

- 自身はこれまで交際をしたことはないが、良い人と巡り合えたら結婚したいという話を母としている。母からは「結婚や出産は早いほうが良い」と言われるが出会いがない。音楽系の大学に通っていたため、同級生に男性が数名しかいなかった。中高は女子校だったため、大学で男性と喋るのは緊張した。
- 良いなと思う人がいたら妊娠・出産も経験してみたい。ただ、妊娠・出産には責任も伴うため簡単には決められないと思う。
- 自身は保育士であるため、保護者の気持ちも知りたいと思う。こどもを持つことが目的で、結婚が手段になっている。しかし、結婚が手段では相手に失礼だと思い、悩んでいる。
- 子育てがしたいから結婚するのだと思う。それ以外に結婚のメリットがないと感じる人が多いのではないか。好きになった人と一緒に子育てをすることがゴールでも良いと思う。
- 結婚・子育てをしたいという気持ちはあるが、こどもが大人になった時に今の日本はどうなっているんだろうかと不安に思う。現在の私たちでさえ年金がなくなると言われるなかで、私たちのこどもは年金を支える立場になるので正直、不安がある。自身も女子校から保育系の短大に進学したため、出会いの場がなかった。マッチングアプリなどもあるが不安がある。
- 結婚は早めにしたいと思う。兄弟・姉妹が結婚や交際をしているが、自身は経験がなく、焦る気持ちがある。マッチングアプリにはサクラがいて、なかなか交際相手と出会えないのではないかと思い抵抗感がある。兄弟・姉妹のこどもをあやしていると「良いな」と思うが、仕事の都合で家を空けることが多いため、将来のパートナーとこどもにも迷惑をかけてしまうのかと思い、踏み出せない。
- ライフプランに、結婚と出産が入っている人は多いと思う。

〇結婚は何のためにすると思うか。

- 自分の老後を支える人が欲しいから。
- こどもには申し訳ないが、こどもがいたら老後の世話やお葬式までやってくれるのではないかと思う。自身は寂しがりやなので、誰かと一緒にいたいということも理由である。現在の家族とずっと一緒にはいられない。
- 結婚は、こどもを生む手段と、社会的ステータスだと思う。昔よりは弱まっているが、結婚している人と結婚していない人だったら、結婚している人の方が社会的ステータスは上だという風潮があると思う。議員や会社の上役は結婚している人が多い印象がある。
- 帰る家があるのは良いと思う。ただ、それが結婚の理由になるかは分からない。COVID-19 に感染しホテル療養をした際に、親が頻繁に連絡をくれた。親がいなくなった後も、自分を気にかけてくる人と自分が気に掛ける人がいたら良いなと思う。
- 一人で死んだらどうなるか怖い。自身も COVID-19 に感染し自宅療養をした際に、実家から色々と物資を送ってもらった。

〇寂しさを埋めるのは結婚である必要があると思うか。

- 同棲等の方法もあるかと思うが、婚姻届を出すことによって「支え合って生きていくこと」が明確になり、安心できると思う。
- 紙１枚での契約ではあるものの、婚姻届を出すことには安心感があると思う。
- 長期間同棲していると「なぜ結婚しないの」と言われてしまう。
- 法律婚の方が事実婚よりも法律上で優遇される。
- 約束という意味では結婚は良いと思う。自身は論文を執筆しており、結婚しても姓を変えたくない。結婚に伴う手続きもより簡素化されれば良いと思う。国が柔軟な対応をとってくれたことで結婚しやすくなったと感じる。

〇子育てについてどう思うか。

- 女性の負担が大きいと思う。お腹を痛めて産んだ子は可愛いらしいと思う。親の責任も大切だと思う。

〇子育てを漢字一文字で表すと何だと思うか。

- 修行の「修」。忍耐だと思う。自分が生んだこどもではあるが人格を持った一人の人間として責任を持って接することが必要だと思う。子育てに関わらず、生きていくこと自体が修行だと思う。
- 楽しいの「楽」。保育士の仕事が楽しいから。こどもと接していてイライラすることもあるが、結果的には楽しいと感じるから保育の仕事を続けていると思う。「保育」と「子育て」には違いがあると思う。保育は責任感を持って多くのこどもたちを育てていく仕事だが、自分のこどもの場合は異なる思いを抱くと思う。保育の場合は対応できることが限られるが、自分のこどもに「これやりたい」と言われたらできる限り叶えてあげたい。
- 希望の「希」。
- 「命」。
- 「幸」。人生が幸せだと普段から思っている。「幸」の字の上部にはプラス（＋）が入っていて、プラス（＋）がなくなると「辛」（つらい）になる。何事もできるだけプラスに考えるように心がけている。子育てについてもできるだけプラスに考えていきたいと思う。

２．自分や周囲の人が、結婚しない・できない・しようと思わないのは、何が要因だと思うか

- 産前産後ケアをより充実して欲しい。自分は保育士という仕事柄、こどもの育ちについて一定程度の見通しが立つが、そういった人は多くない。出産後、女性は精神的に不安定になるなかで、何時間も泣き続けて世話が必要なこどもと過ごすことになる。父親がいなかったり両親の支援が受けられなかったりして、母親と赤ちゃんの二人きりという家庭が増えている。産後院が増えつつあるが数が不足しているし、１泊２日で５万円といった富裕層向けサービスである。補助金が出る自治体もあるが、１泊２日では少し睡眠がとれる程度である。１週間預けられる場所、いつでも駆け込める場所、おむつの変え方・教育の仕方などを助産師の方から教えてもらう場所を国が用意してくれたら出産・妊娠のハードルが下がると思う。「妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援」を国が掲げるようになったことは大きな成果だと思っている。さらに、産前産後のケアが手厚ければ「助けてもらえる」という希望になると思う。同世代の 20 代な

かばの友人から出産後に「家に帰ってきてから赤ちゃんがずっと泣いている。気が狂いそう。」と泣きながら電話がかかってきた経験がある。虐待率は上がっているし、COVID-19 で育休・産休を延長したという話も聞く。支援を充実してほしい。

- 周囲の人が結婚しない理由は、娯楽が多すぎるからだと思う。たとえば、ゲームしているほうが結婚より安心である。出会いがないことに加えて、経済的負担といった結婚することへの不安が大きくなっており、独身貴族のほうが安心だと感じるのではないかと思う。結婚できない人については、体質的な問題や個人の感覚があるので本人の意思を尊重すべきだと思う。また、理想が高いということもあると思う。芸能人が高齢結婚したり、一般人と結婚したりしているのを見て、理想を抱く人もいると思う。
- 理想が高いという点については金銭面も同様だと思う。「年収○○万円以上の人じゃないとダメ」という理由でマッチングしないケースがあると思う。結婚したら共働き家庭であっても金銭的に大変だと思う。

○「独身であっても娯楽を楽しめれば寂しくない」という考え方についてどう思うか。

- 自身は、ゲームや推し活等の趣味はなく、旅行や神社巡り等が趣味である。一人でするよりも誰かと一緒にいることで楽しめる趣味だと感じる。
- 友人と一緒にいるほうが交際相手と一緒にいるよりも楽しい・充実していると感じる。オンラインでは知らない人とも繋がることができる。
- 結婚して家族と何かを共有するのが良いと思っている。自分は、家族と行く旅行が一番楽しいと感じる。友人と自分の趣味は合わないことがある。
- 友人とは趣味が合わないこともあるが、家族は生活を共にするので合うことがあるかもしれないと思った。

３．自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

- 自治体の AI マッチングシステムが話題になっていた。
- 自治体の AI マッチングは利用登録の条件が厳しく、賛否両論あるようである。
- 自治体の AI マッチングは利用登録の条件が厳しいことで、本気で結婚したい人が集まるかもしれない。
- 結婚支援ならマッチングアプリだけではなく、結婚相談所でも良いのではないかという意見があるようだ。
- 同窓会の助成金をやっている自治体がある。結婚のきっかけとして同窓会が多いようである。出生率が一番高い沖縄県では同窓会の開催回数が多いらしい。「婚活・結婚」をストレートに支援するよりも、同窓会支援といったアプローチも良いのではないか。
- 女子校出身だと結婚支援の同窓会支援の対象にはならない。
- いけんひろばへの参加が決まった時に自分の居住地域の取組を調べた。イベントの参加条件が「男性は地域在住の方、女性は全国から」という条件だった。地域外の人が訪れることが少ないため、参加条件がハードルになっている可能性があると思う。
- 自分の居住地域も結婚支援の取組をしていたが、全く知らなかった。イベントで出会う人の地域が限られているのは嫌なので全国での取り組みのほうが良いと感じる。
- 自分の居住地域では、人気アニメーションのテーマパークで 400 人規模の婚活イベントが実施されている。参加倍率が高いため、開催回数が増えると良いと思う。そうした自治体の取組はほとんどの人が知ら

ないと思う。

- いざ結婚したいとなった時にすぐ頼れるようなサービスになってはいないと思う。
- マッチングアプリによっては、利用目的（恋愛か結婚か）が一致しないことがあり難しいと思う。
- 友人から「結婚式で出会ったきっかけがマッチングアプリと言いづらい」ということを聞いた。結婚相談所やマッチングアプリで出会ったことは開示しにくい。
- 出会ったきっかけがマッチングアプリであることは、友人になら言えるかもしれないが、親世代に言うのはためらうかもしれない。

〇結婚や子育てについて職場の上司等から話を聞きたいと思うか。

- 結婚や子育てについて職場の上司等から話を聞きたいとは思わない。上司等から聞きたいという人は「信頼できる人から聞きたい」のだと思う。ハラスメント防止の観点から「結婚するの？」「交際相手はいますか？」という質問を上司等から投げかけるのは NG だと思う。
- 最もクリエイティブな時期が 20 代後半～30 代前半だと言われる。その年代に出産・子育てをすることでキャリアが中断される不安がある。上司等がそうした年代をどのように乗り越えたか話を聞きたい。昔よりは制度が整ってきているが「安心して出産・子育てをする」「社会として育てる」という意識がもっとあると良いと思う。話を聞きたいか、聞きたくないかを左右するものは、現在の動向を知っているかどうかが大きな要因だと思う。昔の話ばかりされても困るので、「今は○○があるから、それを利用すると良い」という助言があれば役に立つと思う。
- 自分自身の話ばかりする人はではなく、会話のキャッチボールができる人の話は聞きたい。

４．ライフプランニング支援についてどう思うか。

〇これまでライフプランニングについて学ぶ機会はあったか。

- 高校の授業でライフプランニングをした。
- 言われてみればあったかもしれない。
- 小学校であったかもしれない。「生きやすい社会」であることが前提の夢のようなプランニングだと思う。金融教育を同時しなければ理想と現実が乖離しすぎてしまうと思う。理想ばかりでは社会に出てからしんどくなってしまうと思う。
- 高校で「何歳で何をしたいかを書く」という授業があったが、金銭面の話はなかった。若いうちから「社会に出るとこういうことがある」ということは知っておくべき。そうでないと、一人暮らしや結婚をした際にはじめて知ることになってしまう。

〇どのタイミングで学ぶ必要があると思うか。

- たとえば、税金には様々な種類があるが、買い物をしたら消費税が課されることは幼少期から教えるべき。大人が納めた税金によって、警察が対応してくれるのは日本の素晴らしいところだと思う。税金を納める理由をきちんと教育すると税金の踏み倒しが減ると思う。税金の使途は透明性が大切だと思う。
- 社会に出る前の学生への教育が大切だと思う。社会に出た後に現実を突きつけられたら生きる活力がな

くなってしまうと思う。

- 義務教育である中学生の時期に学んだほうが良いと思う。株に関する学習が学習指導要領に入ったが、税金に関する学習をしたほうが良いと思う。税金は難しい部分もあるため、学ぶ側も教える側も難易度が高いと思う。
- 国がお金のことに関する分かりやすい教材を作成して各学校に配布すると良いと思う。

○金融教育以外で、社会に出る前に学んだ方が良いと思うことは何か。

- 障害や基礎疾患を持ってこどもが産まれた際に、仕事復帰できない可能性がある。支援は手厚くなってきているが、「自分が亡くなった時に誰が面倒見てくれるか」は不安になると思う。いくらライフプランを立てていても、良いか悪いかの判断は別にして、生まれてきたこどもによって一気に変わってくる可能性はある。たとえば、ライフプランを考える際に「障害や基礎疾患を持った子が生まれた際には国がサポートします」と言っておいてくれれば安心感が全く違うと思う。現状では医療的ケア児のサポートは拡大しているものの家族に負担がかかっており、保育等の現場は全く付いていけてないと思う。
- 性教育が必要だと思う。現在は性教育に「歯止め」がある。とある自治体では土産物屋で避妊具が売っており、幼少期から性について学ぶことができるため出生率が高いと耳にしたことがある。そういった教育も必要だと思う。また、合計特殊出生率のカラクリを伝える必要がある。算出対象が 15～49 歳に限定されている。また、15～19 歳とかでなく各年齢の数字を出す事で法令上の結婚可能年齢のその前など細かいことが見えてくるため細かい記載も必要だ。カラクリの理由についても考えたり、教えていく必要があると思う。

○出産適齢期などについて学校で学んだことがあるか。

- 出産適齢期について学校で学んだことがある。
- 出産適齢期については教科書に書いてあることのみで、簡単にしか学んだことがないと思う。小学生の男子は生理のことを学校で学ばない。インターネットの情報を通して学ぶことがあると思うが、インターネットには誤った情報もある。小学生から性教育をきちんと実施するべきだと思う。
- 小学校で、女子だけ生理に関する話を聞いた。男女一緒に話を聞くことが重要なのかもしれない。
- マタニティスーツを着る体験をする学校もある。
- こどもを産むと、赤ちゃんとマザーズバックなども持たなければならない。それがどれだけ大変なことか。
- 25～30 歳で働きたいのに人生に子育てが入ってくる。育児休暇を取得した人が職場に復帰しやすくための支援が重要だが、不足していると思う。

５．結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

- 結婚しない要因は、経済的な理由による断念が最も大きいと思う。また、こどもを産みたくない理由は、経済的な理由に加えて、子育てへの不安もあると思う。子育てへの不安を解消するためには、専門職による支援が必要で、その専門職を支援するためには処遇改善が必要である。保育士の「給料が９千円プラスになる」というニュースがあったが、実際には最低賃金になるように加算金を入れており、実質給料は

増えない制度設計になっている。現在の制度設計が認められているのはおかしいと思う。

- 「こどもだれでも通園制度」について、受入側の保育士としては突然来られても困ると感じる。入園前には、アレルギーの確認等膨大な書類を提出してもらい、こどもを受け入れている。また、受入により保育所面積基準を守ることができない点も懸念している。そうした点は専門職以外に知られていないと思う。制度設計や正しい知識について教えてほしい。
- 保育士として現場で働いていて「安心してこどもを預けることができる場所」が少なすぎると思う。現状の保育士の待遇では、こどものことを考えて理論的に取り組んでいる人材が離れてしまう。保育士を志す学生は減っている。保育施設がなければ社会は止まってしまうのだから、保育士は絶対に必要な職業だと思う。保育士の手当ではなくて基本給を上げて欲しい。
- COVID-19 の流行をきっかけに、保育施設の必要性が認知されたかと思ったが、そうでもなかったのかと思ってしまう。
- 結婚助成金の配布対象は狭いと感じる。助成金の給付対象を拡大して欲しい。

〇出会いを増やすために国ができる取組は何か。

- ブラック校則である、恋愛禁止の校則をなくすべき。
- テーマパークでのイベントのような、楽しいイベントがあると良いと思う。
- 国が自治体に対して補助を出せば、色々な自治体がやりたいと思う。
- 「街コン（街ぐるみで開催される出会いのイベント）」は自治体ごとの特色を生かした場所で実施すると良いと思う。
- 安心感は絶対に欲しい。国の取組であることによって、安心できると思う。

以上

【対面】B 班（高校生世代１名･大学生世代２名）

１．将来、結婚したり子育てしたりしたいと思っているか。

○ 結婚をしたい/したくない、こどもをもちたい/もちたくない、と思うことについて、なぜそう思うか。

- 結婚はしたい。
- 結婚はしたいともしたくないとも思う。
- 結婚は、一緒にいたいと思う人ができたときの延長にあると思うので、結婚しなくてもそれはそれで楽しい。
- 結婚しなくても、パートナー（異性と同性の両方を含む）として一緒に暮らすことはできる。
- 例えば、同性愛者は現在制度がないので結婚はできないが、同棲することができる。
- こどもを作るという目的がないのなら、結婚しなくてもいいのではないかと思う。
- 社会的ステータスを得るために結婚するならいいが、結婚したからと言って何かがすごく変わるわけではない。ただし、結婚によって気持ちの変化は大きいと思う。
- 結婚にそこまですごく特別な価値があるわけではないと思う。
- なぜ結婚するかというと、老後の独りぼっちを避けるためもあると思う。
- 結婚して老いて、パートナーが重い病気を患ったときに愛せるか、見捨てるか、などを考える必要がある。
- パートナーが事故で亡くなる場合の再婚などについても考える必要がある。
- 結婚したくないというより、結婚しなくても大丈夫、という人も増えている気がする。
- 女性も稼げる人が増えたから、結婚して養ってもらわなくてもいい。
- 一人の時間も大切にしたいと思って結婚の必要性を感じなくなってきたのではないかと思う。
- 子育ては、前までしたいと思っていたが、よく考えれば考えるほど難しいと思う。
- 子育ては自分でしたいので保育園にはあまり入れたくない。
- 経済面や、いろんな面で自分に余裕がないと自宅での育児は難しいと思う。
- 子育ては、妊娠・出産が大変そう。
- つわりはきつそうだし、精神的にも不安定になるので大変そう。
- SNS で子育てはこどもが生まれる前からお金を貯めて計画を立てないと経済的に厳しくなるという書き込みを見かけた。簡単なことじゃないと思う。
- 自分が見ている YouTuber は、共働きだけど母親の方がアメリカに住んでいてリモートワークをしており、時間の融通が利くので子育ても楽しそう。
- YouTube では生活の一部しか見ることはできないが、子育ては意外とできるのかもしれないと思った。
- 経済的に余裕をもつことと、結婚や子育てのどちらを選ぶべきかわからない。
- 子育てをすると時間に余裕がない。
- こどもがもともと好きなのでこどもが欲しいと思っていた。
- 今は３歳以上の子は無料で保育所に入れるが、それより家事等の負担を小さくすることで、こどもといる時間を増やすための支援が欲しい。
- 保育所から帰ってきて家事をする時間の代わりにこどもと過ごせるようにしたい。
- 時間の余裕ができれば、こどもが欲しいと思う人が増えるのだと思う。

- 子育てはしたくないと思う。
- 自分がひねくれているので、自分が子育てしたら変な子に育っていじめられたりしたら嫌だと思う。レールから外れた行動をこどもがしても社会に著しい迷惑をかけていなければ尊重したいと思う反面、型にはまった生き方がいいという周りからの圧を受けそう。
- 自分がこどもを持っても、たとえば、こどもが「学校に行くのは嫌だけど、行かなければいけない」といった思い込みから、精神的な病を発症してしまわないだろうかと思う。
- こどもが生まれて、みんなと同じように生きていても本人が苦しむだけだと思う。
- こどもには「こういう生き方もある」というように、迷惑をかけない範囲で好きなことしていいと伝えたい。

○ どういったコミュニティの人と結婚したいか。職場恋愛や学校内恋愛はハードルが高いか、あえて別のコミュニティを選ぶのか、社内結婚の方が仕事への理解があって良いと考えるか、等。

- 大学生の時はサークルが良い出会いの場だと思う。
- 学校では、狭い価値観しかないように見えてしまう。そのような狭い価値観をくだらないと思っている。
- 学校だと同じ学年で同じくらいの学力の人、つまり似た人たちと関わる。その中で話し合いをすることにも価値があるが、色々なバックグラウンドを持った人が１つのトピックで話し合うということに意味があると思う。
- サークルなどの交流の場に参加する一番の目的を出会いにすると、出会いにくい気がする。趣味を通じて出会うというスタイルであれば出会いやすそう。
- 合コンはお酒が主流だけれど、「出会うためにお酒を飲もう」ではなく、「日本酒好き集まれ！」のように呼びかければ価値観が近い人が集まって楽しそう。
- 趣味が同じなのは良いと思う。友人にも、２人ネットで知り合って付き合った人がいるが、X で趣味のアカウントを作ったり、オンラインゲームをする中で出会っている模様。
- 同性の友達から輪が広がることもあるかもしれない。

○ 出会いのために具体的にどんな行動をしているか。

- 社会人サークルに参加して、自分から人との関わりを増やすようにはしている。
- 出会いの場にいても、なかなか人と深く仲良くなれるわけではない。
- 結婚やパートナー探しが目的というよりは、人と関わりを広げたり、交流したりすることに価値があると思っている。
- 人との関わりを増やすことで自分が成長できたり、学べたりすることもある。
- 人との関わりを増やす中でパートナーとの関係に発展すればいいなという気持ちがある。
- サークルなどに積極的に参加をしたり、授業でも隣の席の人に話しかけたりしている。
- いけんひろばに参加した理由のひとつは、いろいろな人の意見を知りたいから。

○ 結婚相手を選ぶときに大切にすること。なぜそれを大切に思っているのか。

- 以前は価値観が合う人と結婚したいと思ったが、やはり価値観が全く同じであることはなかなかない。
- こどもが欲しい・欲しくないといった大きな違いは気にしたほうがいいけれど、日常生活の中での違い、例え

ばご飯を炊飯器に残すかどうかといった小さな価値観は違うのが当たり前なので、そのうえで、自分と異なる価値観に歩み寄るのが大切だと思う。

- 価値観の違いで対立したときに和解できるかできないかというより、価値観が違うことをわかってお互い歩み寄るのが大切だと思う。
- 価値観は男女で二分されがちだが、そんなことはないと思う。
- 男女の価値観の違いとして、例えば SNS で「男がおごるべきだ、おごらないのは情けない」「女は男を立てろ」というのを見る。
- 日本とヨーロッパの価値観の違いについてインターネットの記事で読んだ。ヨーロッパで男性がおごったら「なんでおごられないといけないんだ」と女性が思うかもしれない。国レベルの差もあるかもしれない。
- そもそも何のために生きるのかという価値観が合っていると良いと思う。
- 仕事をとっても、お金を稼ぎたいのか、社会貢献したいのかなど、価値の置き方が複数ある。極端に価値観が合わない人とは合わせないと決めたり、なぜその人がそのような価値観になったのかを考えてみたりすると他人の価値観に寛容になれると思う。
- アメリカは、日本より男女平等のイメージはあると思う。
- 通っているアメリカの高校の友達グループは男女がごちゃまぜ。
- 自分は日本では同性の友人が多かったが、アメリカに行ったら性別を気にせず「その人はその人」という考えで衝撃だった。

２．自分や周囲の人が、結婚しない・できない・しようと思わないのは、何が要因だと思うか。

○ 結婚について周囲とよく話すか。

- 20 歳を超えたころから話し合うようになった。
- SNS では「結婚したくない」という意見はよく聞く。
- SNS では愚痴の方が共感されるのかなと思う。
- SNS では、例えば「夫が炊飯器にご飯を 2 口だけ残していて腹立つ！」といった内容があった。
- SNS は匿名で顔が見えないから、対面以上に愚痴をこぼしやすい。
- 子育てをしたり、誰かと一緒に暮らしたりするのは大変そう。でも、そのような結婚して大変ということは現実ではほんの一部だとも思う。
- SNS で目にする一部の過激な意見を全てだと思わないように心掛けている。
- 結婚や子育てに関する漫画はついつい読んでしまう。
- 結婚したいけれどできない人は、相手に「なんでこんなこともできないのか」と言いがち。
- パートナーに過剰な期待をしすぎだと思う。
- パートナーに過剰な期待をすると、例えば男性はなんでこんな面倒なことを言うのか、女性はなんでこんな感情的なのか、等の愚痴が出てしまう。
- パートナーを幸せにしたいという根本的なマインドをもって、パートナーのために「なんでもする」くらいであると結婚してもうまくいくのかもしれない。
- パートナーが「なんで掃除しないの」と言うパターンなら「自分が掃除しておいたよ！」と先に動けると良い。

- パートナーの遅刻癖があるなら、自分の悪いところもその代わり許されるなど、対等な関係が大切だと思う。

○ 結婚のハードルになることは何か。

- 思いやり。
- 寛容さ。何かできなかったときに「しょうがない」とできるとよい。
- 「なんでこんなことができないの」「人間失格だ」といった否定的なことばをかけられると、離婚に繋がる。
- 自分の意見の主張は大切だけど、伝え方が大切。
- 「なんでそうなの？」のように攻撃的なことばで伝えるは良くない。
- 人間の価値観は絶対違うはずなのに、少し違うだけで仲違いしてしまうところがあるかもしれない。
- 今は共働きが増えてきて、家事の分業が難しいことがケンカの原因になっているのではないか。
- 出会える人は出会えるが、出会えない人は本当に出会えない気がする。
- 出会えない理由を考えるのが難しい気がする。
- 本人が「こんなに頑張って出会いを探しているのに」と思っていても、実際にはとても高圧的な態度をとっていたりすることもあるのではないか。
- 出会いを探しているのに、出会いにつながらない態度をとっていることを本人が認知することはとてもストレスがかかることだと思うので、認知するのがなかなか難しい。
- 強がりで結婚したくない人と、一人で一匹狼のような人で結婚したくない人なのかでハードルになることが異なる。

○ 家事の分業の在り方はどういう形がいいと思うか。

- 洗濯は誰、料理は誰、のように決めておけるのが本当はよさそう。
- 分業というより、気づいたほうが積極的にやる、やらなかった方はありがとうと伝える、という形が良いと思う。
- 家事も、家事代行を雇えばいいので、その支援金を国が出せればいいと思う。
- 家事はやって当たり前、自分のことだから。海外だとベビーシッターを使ったりもするので、利用支援があったらいい。
- 家族だけでなく、もっと周りに頼ったらいいと思う。
- 「1982 年生まれ、キム・ジヨン」を読んだ。フェミニズムの本だと知らずに読んだが、本当に普通の女性の生涯が描かれていた。「結婚して、こどもが生まれて、仕事を辞めなくてはならなくなった」というストーリーで、日常生活の様々な場面で諦めなきゃいけない部分があって衝撃だった。この本の内容に共感している人がたくさんいるのも衝撃的だった。今日本で女性が専業主婦になるべきだ、という考えがどれだけ根付いているかわからないけど、この本のような価値観の中で自分が生まれたら、結婚したくないと思うだろう。
- 専業主婦への風当たりが強いと思う。
- 専業主婦がさぼり、家でゴロゴロしているだけ、のようなイメージがあると思う。
- ひとり親が自己責任だ、というのは絶対にやめたほうがいい。誰も幸せになれないから、彼ら彼女らを見下すことをやめてほしい。
- 育児休業も、長くとっていい雰囲気はあるものの、２～３年になると取りづらい雰囲気がある。

- 産休を取る際に休みづらい雰囲気はある。
- 産休・育休を取得することに罪悪感のようなものもあるのかもしれない。
- 小学生の頃は、自分の父が夜中 2 時に帰ってきて朝ほんの少し話す程度だった。
- アメリカのホームステイ先のホストマザーと労働時間について話した時に、日本では 8:00-9:00 に出勤して 19:00-20:00 に退勤することが多いと伝えたらすごくびっくりされた。
- アメリカでも仕事によっても異なるだろうが、オフィスワークだと出勤時間が自分と同じでも 17:00 くらいには帰るそうで、退勤が早い。
- 子育ての話は、子育て単体で考えられるものではなく、働き方改革などと絡まりあっていると思った。
- 共働きについて考えると、昔は外に出て働きたいという理由が多かったが、最近では金銭面や周囲で共働きが一般的になったからという理由が増えているように思う。

○ 結婚しない理由として「適当な相手とまだめぐり合わないから」が理由として多いとの統計データについてどう思うか。ご自身や周囲で"出会いがある/ない"などが話題に出ることはあるか。

- 自分の周りで出会いのある・ないについて話すことはない。出会いのことについてあまり話したくない。
- 出会いの有無について話すことはあまりない。
- 周囲は性格、社会的地位、容姿といった条件のようにパートナーへの期待値が高すぎる。
- 周りから見たらパートナーへ期待しすぎなのに、本人は普通だと思っていることがある。
- 大衆雑誌やマスメディアによって、異性に関する偏見を持ってしまうのかもしれない。

○ マッチングアプリや結婚相談所を利用したことはあるか、どういったイメージがあるか。

- マッチングアプリや合コンへのマイナスのイメージがまだあると思う。
- マッチングアプリや結婚相談所の利用には「普通にしていて出会えないからでしょ」という偏見や、親からのマイナスイメージなどがありそう。
- 自分の地域だと「スポコン（スポーツを通じた合コン）」や「相席居酒屋」のチラシを見かけるが、軽いイメージもあるので、マイナスなイメージが取り払われたらいいのにと思う。
- マッチングアプリを使ったことがあるが、下品な人も実際にいる。
- マッチングアプリには AI などでフィルタにかけて正規利用以外の人を減らせたらいい。
- マッチングアプリはもう少しセキュリティがしっかりしたらいい。
- 女性を軽く見ている人だと、軽い行為もしようとする。
- 結婚を前提にしている人だけが集まるマッチングアプリがあればいい。
- 本気でマッチングしたいのか、性的な目的なのか、の区切りをはっきりできたらいいのにと思う。マッチングアプリについて聞いている話だと、結婚を考えて使っている人と、遊び半分の人が混在している。棲み分けできたらいい。
- あるマッチングアプリだと、若い遊び目的の子が多くいる。
- YouTube で、「マッチングアプリ 出会い」と調べると、遊び半分の人が出ている動画が多く出てくると思う。その方が再生数も伸びるのだと思う。

- 「マッチングアプリで結婚した」という広告は信用できないが、データがあれば信用できる。
- 広告でマッチングアプリで出会えたとうたっていても「顔がいいからだ」「自分はできない」と言われてしまうと思う。
- マッチングアプリの「こんな人でも出会える」という言い方は人間を見下すようで好きじゃないので、利用は難しい。
- Instagram でフォローしていたカップルは、合コンのようなイベントで知り合って付き合っている様子を漫画で描いていて、素敵な関係だった。
- 漫画を通じて、合コンにネガティブなイメージがなくなった。
- マッチングアプリは広告ではない発信方法がいいと思った。
- マッチングアプリだけでなくオンラインのコミュニティで出会うこともあるのだと思う。
- マッチングアプリや合コンは性質上、男性であるか女性であるか、どちらかの性に属さないといけない。
- 自分は明らかに一般的な異性像から外れている気がしていて、マッチングするにはハードルが高いと思うことがある。
- 異性の中で評価されるというより、人間として評価されたい。
- マッチングアプリでは、男性の方が出会いを求めていて利用人数が多かったり、利用金額が高かったりすると思う。
- 男性だからおごるべきというが、それは「男性はお金を持っており、女性がお金を持っていない」という偏見が前提にあるような気もして気になる。
- 男性のうち遊び目的の人を排除したいがためにお金がかかる場合もあるかもしれない。
- お金がかかるかどうかは、参加者の男女比率も影響しているかもしれない。
- マッチングアプリでは女性の方からアプローチするのが主流ではない。男性が残りがちなのでマッチングアプリは男性の方が利用金額が高くなっているのだと思う。
- 「価値観マッチング」という言葉があるくらい、同じ好きな食べ物やスポーツが同じ人と会うことが多い。ただ、趣味が異なる人と話すと楽しいと思うことがあるので、いつもと違う人たちと出会ってみるのが良いと思う。
- 趣味や好きな食べ物ではなく、結婚や同棲をするうえで必要な価値観でマッチングできると良い。
- たとえば、共働きがいいか・専業主婦がいいか、といった深い価値観が一致する人とマッチングしたらうまく行きやすい気がする。

３．自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

○ 自治体の結婚支援の取組を知っていたか。知っている人は何で知ったか。どういう印象を持っているか。

- 自治体の結婚支援の取り組みは事前説明会で初めて知った。
- 自治体のマッチングアプリはセキュリティがしっかりしていると聞く。それをもっと大々的に説明したら、普通のマッチングアプリより安心して使えると思ってくれる人が多そう。

○ 複数の自治体取組を紹介したが、興味があるもの、利用してみたいものはある？

- 文字で説明されてもわからない。使ってみるのが大切だと思う。

- 公的な自治体が実施するのと、企業がアプリを実施するのでは、個人的な印象ではセキュリティが結構異なりそう。自治体が提供しているものはセキュリティが強そうで気になる。
- まちの魅力を再発見してもらいたいという思いを持って自治体は地域での結婚支援に取り組んでいるが、近所の人と出会ってしまうことに心配があるという声も聞いたことがある。

○ 自治体の結婚支援について、「地元で出会えるのがいい」という声がある。地元での出会いを希望するかどうか、ご自身や周囲の人はどうか。（特に地方出身の方）

- 地域の風土が気になる。
- 人口が少ない県だと、出会える人が限られてくる。

４．ライフプランニング支援についてどう思うか。

○ これまでライフプランニングについて学ぶ機会はあったか。

- 具体的に考えたことはなかった。
- ライフプランニング講座ではないが、中学生のときに何歳で結婚して…というような人生計画を学校で作ったことがある。
- ボランティア活動をしていた NPO で同様の講座を受けたことがある。
- ライフデザインをすることはいいと思う。
- 未来から今何をするか逆算することはできるが、中学生のときは何のためにライフプランニングをしているのかわからず難しいなと思っていた。
- ライフプランをみんなの前で発表しなくてはならなかったため、人目を気にして、本音で書ききれなかった。
- 中学生より高校生の方が現実的に講座を受けられるかもしれない。
- ライフデザインを具体的に作りすぎても良くないかもしれない。
- ライフプランで自分がやりたいと思うことは持っておいても、途中で変わるかもしれない。
- ある時点で作った計画にこだわりすぎないことが大切。
- 人生のいろいろな局面で自分に合っていることを見つけたら方向転換してもいいと思う。
- ライフデザインをしても、型にはまった計画しかできないのではないか。
- 中学を卒業して働くのか、大学院まで行って研究者になるのかといった将来のことは想像しづらい。
- 外的要因も影響するだろう。例えば先生に「あなたはこういうことが向いているからこうしなさい」と言われたとおりにしてしまうなどといったこともありえる。
- 他の人のライフデザインを批判せず参考に見ることは役に立ちそう。

○ライフプランニングに関してアイデアはあるか

- 自分が作成したときは結婚という項目があらかじめ組んであるなど「型」があった。
- もっと自由にライフプランを作れたほうがいい。
- マイナーな職業は知られないとプランに組み込めないのでいろいろな職業を知る機会が合ったらいいと思う。
- 公務員ひとつとっても国家公務員や地方公務員等様々ある。若いうちは職業について具体的に想像が

できていないと思う。

- プランの選択肢がどれくらいあるのかを知っておくと、ライフデザインをしやすいと思う。
- 職業体験をしたとき、自分が好きなところを１つ選んで実施した。それだけだと楽しいのか、他のところはどうなのか、がわからないまま終わった。もっと様々な職業を体験できたら、ライフプランも考えやすいと思った。
- 高校でライフプランニングについて扱うとしても、工業科、商業科、農業科などで、将来見えるものが違うと思う。
- 職場見学などで、ある会社の施設を見に行ったりしたことで結構具体的に知ることができた経験がある。
- 普通科以外の高校などに通っていれば、大学へ進学せず高卒で就職する人が多く、普通科と違った視点が見えるような気がする。ライフデザインをする前に情報を知っておくと視野が広がると思う。
- 親戚が公認会計士で、本で公認会計士について調べた時に説明が難しく、堅くて、正直魅力的に思えなかった。でも、公認会計士が仕事についてかみ砕いて説明している動画を見たら「こんなに魅力的な職業だったんだ」と思った。なので、職業紹介の本で勉強するよりも、かみ砕いてこの職業はこのように人の役に立つということを学べるといいと思った。

5. 上記以外に、結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

- 結婚したほうがいい、と押し付けるべきではないのは当たり前だが、そのことと国の少子化問題とのバランスをとることが難しい。人口が減少すると、国として機能しづらくなる。少子化は食い止めるべきと言っている人のことも尊重すべきだし難しい。結婚したいと思っている人の中からどれだけ結婚する人を増やせるかが大切だと思う。

以上

【対面】C 班（高校生世代４名）

１．将来、結婚したり子育てしたりしたいと思っているか。

〇結婚をしたい/したくない、こどもをもちたい/もちたくない、と思うことについて、なぜそう思うか。

- 必ず結婚したいと思っている。ずっと一人でいるのは寂しい。また、自分が忙しい時に助けてくれる、絶対的に信頼できるパートナーがいることで、お互い支え合えるという安心感が得られると思う。
- 自分も結婚したいと思っている。ずっと一人でいるのは寂しい。今後、自分が働いていくことを考えると、二人三脚でやっていった方が安定すると思う。また、兄が自分の面倒をよく見てくれていたので、自分のこどもができたら色々してあげたいという思いを強く持っている。こどもはかわいいと思っている。
- 自分も結婚したいと思っている。仕事から帰宅した後に家事をすることを想像すると、二人三脚でいたほうが良いと感じている。
- 自分も結婚したいと思っている。ドラマなどで登場する夫婦役が幸せそうにしている姿を見ると、結婚に対して憧れの気持ちが湧く。

〇希望する結婚年齢　／　希望する出産年齢　となぜそう思うか。

〇どういったコミュニティの人と結婚したいか。職場恋愛や学校内恋愛はハードルが高いか、 あえて別のコミュニティを選ぶのか、社内結婚の方が仕事への理解があって良いと考えるか、等。

- 仕事に慣れてくる 20 代後半から 30 代前半までが最も結婚しやすい時期だと思う。自身が従事しているボランティア活動に理解を示してくれる相手がいい。自分が倹約家なので、散財しない相手がいい。
- ある程度価値観が合うであろう大学の同じサークルや学部の人が良いと思っている。もし大学で相手と出会えなかった場合は、初めて入った会社などで出会えると良いと思っているが、相手のことをよく知ることができるのか分からないのが心配である。時期は、大学卒業後の 20 代後半から 30 代前半頃までに結婚したい。大学で結婚相手を見つけられるか分からないし、相手と早めに出会えたとしても、自身の性格的に積極的に話を進められるタイプではないので、時間をかけると結婚が 30 代前半になるかもしれない。
- 価値観が合う人がいれば、大学生から 30 代前半ごろに結婚したい。ただし、法律婚をすると名字を変えなければいけないため、大学卒業や就職後に結婚するとカードや銀行口座、勤め先での変更手続きが大変だと思う。
- 結婚する時期や結婚相手のコミュニティに強いこだわりはなく、結婚したいと思える相手に出会えたタイミングで結婚したい。ただし、子供を産むことを考慮すると、高齢になればなるほど妊娠しづらくなると聞いたので、28 歳から 30 歳ごろまでに結婚・子育てしたい。

〇出会いのために具体的にどんな行動をしているか。

- 出会い系アプリを入れたりはしていない。
- おさがりの服を着ていたがやぼったいので、イメージを変えるために着る服を買った。
- 大学に進学するにあたって、メイクについて勉強しないといけないと思うようになった。

〇将来マッチングアプリを使ってみたいか。

- 高校の先生がマッチングアプリで知り合った人と結婚したという成功例を見て、真面目にアプリを使っている人もいるのだと思った。出会いの方法の一つとしてはありかもしれないが、アプリに入力されている情報だけで良い人かどうかを見極められる自信がなく、自分は使う勇気が出ないと思う。
- 中学校の時の先生が出会い系アプリを使って失敗していた。その先生は「写真は加工されていて、実物と大きく違っていた。また、収入についても全然違うことを書いている人がいる。さらに、プロフィール欄に『教員』と書いていると、たくさんの人からオファーが来て怖かった」と言っていた。もちろん、結婚を真面目に考えている人もいるだろうが、遊び目的の人も多いと思う。写真だけでは相手の内面が分からないので、あまりマッチングアプリについて良い印象を持っていない。
- 友達の姉がマッチングアプリで出会って結婚したので悪いイメージはない。大学やバイトで出会いがなくて困ったら使おうと思っている。相手の人となりは会ってみて判断しようと思う。
- 周囲にマッチングアプリを使っている人はいないが、大学で出会いがなかったら最終手段として使いたい。ただ、良い人かどうかは会ってみないと分からないというギャンブル的な性質があると思う。
- AI がマッチングにあたって使用している情報は、あくまでもアプリの利用者が自己申告したものであり、AI はそれらの情報が嘘か本当かを見極められない以上、マッチング結果の信ぴょう性は低いと思う。あくまでも最終手段として使うのはありかもしれない。
- アプリにおすすめの人を紹介されると、相手に対して求めるハードルが上がってしまう。アプリ以外で出会う場合よりも価値観が違うことが分かった時の反動が大きそう。価値観が完全に一致する人はなかなかいない以上、価値観を合わせたいと思える相手かどうかが重要だと思う。
- 理想的な人はすでに対面で相手を見つけているので、マッチングアプリで出会える人は、アプリを使わざるを得ない状況にある人が多いのだと思う。また、マッチングアプリに入力できる情報は限られているので、AI におすすめされても本当にマッチしているは限らない。
- マッチングアプリに対して不安に思う気持ちが大きくなった。相手は対面で見つけたいと思った。

〇結婚や子育てに対するイメージ、得られるもの/失うもの、メリット/デメリットとして思い浮かぶことは何か。

- 親を見ていると、収入の８割くらいを子育てに使ってくれていると感じている。自分のきょうだいが通っている私立大学の学費や電気・ガス代、食費などでお金が無くなっていく。こどもはかわいいのでお金をたくさんかけたくなる一方で、老後の資金など親が自分自身に使えるお金が限られていくのは大変だと思う。また、子育てしない場合でも、結婚していると経済的にも心理的にも相手のことを気遣って我慢しないといけない点はデメリットかもしれない。
- 相手のことを気遣わなければいけないのはデメリットと捉えられる部分もあるかもしれないが、お互いを思いやる気持ちがあれば、そこまでデメリットとは感じない。例えば、時間的な部分で相手と都合が合わないことが続くとフラストレーションがたまるかもしれないが、お互い様だと思う。
- 結婚する相手にもよるが、対人関係の自由さが減ってしまうかもしれない。例えば、大学時代の異性の友達と遊びに行くのを嫌がられることがあるかもしれない。
- お互いの価値観が違いによってケンカが起きるくらいだと思う。

- 小さいこどもは良く動き回るので、常に見守っておくのが大変だと思う。特に幼少期はトイレやお風呂のお世話をする必要があるので、親自身の時間が確保できないと思う。
- こどもに対する周りの目が厳しくなってきたと感じている。最近、近所の公園でボール遊びが禁止になった。何かあった時にすぐネットで書かれたり、近所のうわさになったりする。周りに非難されることを恐れすぎると、こどもが外に出られない状況になるかもしれないと感じている。

〇結婚・出産後のご自身のキャリアについての考え。

- 最近は男性も育休を取得するようになったのはとても良いことだと思うが、休んでいる間の自分の仕事を周囲の人に引き受けてもらうことに申し訳なさを感じると思う。ある会社では、育休を取った人の周りの人がお金をもらえる制度を導入していると聞いた。まだ、ごく一部の企業にしか導入されていない制度のようなので、もっと導入している企業が増えて、安心して育休を取得できるような社会になって欲しい。
- こどもが生まれたら育休を取得したい。家庭科の授業であるドラマを観たが、「こどもが産まれたので育休を取る」という宣言をした時に、周りに嫌な目で見られるシーンがあった。こどもの出産予定日が判明した段階で会社に伝えておけば、会社側も社員が育休を取得する期間を事前に把握できるので、余裕をもって育休を開始するまでに余裕をもって必要な準備や手続きを進められるのではないか。
- 育休を取得することに対して理解を示してくれない上司の場合は、昇進に影響すると思う。育休を取得した人の周りの人がお金をもらえる制度が広まれば、誰も嫌な思いをすることがなくなる。
- 就活やインターンの時に、先輩社員の方から出産や育児に関する情報を収集して、自身の就職先に求める条件を満たしているか確認しようと思っている。
- 男女ともに育休を取得する風潮ができつつあるので、育休を取得すること自体に不安はない。ただ、1 年以上のブランクを経て復職した時に、問題なく仕事ができるのか不安に思う。また、自分が偉い立場だった場合、部下への指導などができなくなるのでキャリアが止まってしまう恐れがありそう。
- 昔と違い、育休や産休の取得に対して寛容な社会になってきているので、育休などを取得することに対して、あまり不安に感じていない。実際、高校の先生は男性だが、育休を 1 年間取得したのち問題なく復帰して働いている。
- キャリアが止まってしまう心配はあるが、産休が終わった後に後れを取り戻せるよう、人一倍仕事を頑張ろうと思っている。できる限り、奥さんに子育ての負担がかからないようにしたい。

〇希望するこどもの人数 / こどもを希望しない人のそう思う理由

- 自分は双子で男のきょうだいがいて、共通の話ができたりして楽しいので、2 人くらいほしい。
- 少なくとも 2 人、収入に余裕があれば 3 人欲しい。2 人きょうだいの場合、ケンカしたら仲が悪くなったまま事態の収拾がつかなくなるが、3 人いればケンカに関わっていないきょうだいがつなぎ役となって、関係性を回復させることができる。時期としては、結婚してから 1 , 2 年後に 1 人目が欲しい。
- 自分にはきょうだいがいるので理想は 2 人だが、現実的には 1 人だと思う。きょうだい 2 人だと 1 人にかけられるお金や時間が減ってしまう。時期としては、結婚してから 5 年以内には 1 人目が欲しい。
- 年収次第で持てるこどもの数は異なると思う。自分は一人っ子で遊ぶ相手が欲しいと思っていたので、希

望は２人以上だが、大学進学率が上がっている状況を踏まえると金銭面が心配になる。

２．自分や周囲の人が、結婚しない・できない・しようと思わないのは、何が要因だと思うか

〇結婚したくないと思う理由。その答えの背景となる事柄があればその内容。

- 「じらしてくる」や「思わせぶり」などの言葉ができたように、昔と比べて恋愛が複雑になってきているのかもしれないと感じている。なにげなく友人などに相談するとすぐ噂が広まってしまうが嫌で、思いを伝えづらくなってしまっているのが、恋愛のしづらさ、ひいては結婚しづらさにつながっているのかもしれない。また、付き合ったら周りの目を気にしたり、相手に気を遣ったり、考えないといけないことが増える。今は AI で論文やプレゼン資料が簡単に作成できるように、面倒臭いことを減らしていく流れがあるので、恋愛も「面倒臭いこと」として避けられるようになってきているのかもしれない。
- 人が幸せに感じるものが多様化してきたことも要因の一つかもしれない。例えば、アイドルを推すために様々な場所に行きたい人にとっては、結婚が幸せではないのかもしれない。昔は幸せになるための選択肢が結婚などに限定されていたが、幸せの在り方が多様化してきたことで、結婚の優先順位が下がってきているのだと思う。
- 異性と一緒に帰ったり廊下でしゃべったりするだけで付き合っていると言われ、付き合うと一瞬でバレてしまい先生たちに広められることもある。以前付き合っていた相手とも周りの目が原因で別れた。周りの目が怖くて付き合うことができない人も多いと思う。それも相まって、結婚しないと幸せになれないという考えがなくなってきているのだと思う。
- 一番の原因はお金の問題だと思う。大学に進学するのが当たり前の風潮となってきているので、大学の費用が捻出できないとこどもを産めない。正社員と比べて賃金が低く、社会保障が手厚くない非正規雇用の割合が全体の４割程度を占めている。

〇結婚へのハードルとなっていると思うことは何か？

〇結婚しない理由として、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が理由として多いとの統計データについて、どう思うか。

- 最近は日本の経済状況が厳しく先が読めないので、結婚相手に対して求める収入や学歴などの理想が高まった結果、出会いにくくなっているのだと思う。社会状況の影響を受け、適当な結婚相手の選択肢が狭まっているのだと思う。
- 男女ともに相手に求める経済力が高まっているので、自分の年収が低いと「自分は選ばれないのではないか」と思い、結婚を諦めてしまう人が一定数存在するのかもしれない。

〇統計では「自分のスペックに自信がないから」との回答がある。これについて、どう思うか。

- 今は男性でも化粧水を使ったり、整形をしたりする人もいる。また、運動が危険という考え方のせいか自分の周りにも運動経験のない人が多いが、女性は「適度な運動ができる男性の方がいい」と思う人が多いので、そのギャップで自分に自信がない人はいると思う。スポーツで良いプレーをして自信をつけるなどの成功体験がない人が多いのかもしれない。

- 自分のスペックが低いと思っている人は、友人ではなくYouTubeやInstagramなどのshort動画に登場してくる、自分に自信を持っている人たちと比較している可能性がある。

〇結婚の理由として"メリットを感じない"と回答した人が一定数いる。メリットを感じないのはどういった理由が考えられるか、どういったことがメリットとして考えられるか。

- 最近は動画コンテンツやスポーツ観戦など一人でも楽しめるコンテンツがたくさん存在している。逆に気遣う相手がいると面倒臭く感じることもある。娯楽が結婚により得られる快感を上回っているのかもしれない。
- 「結婚する必要性をまだ感じない」などと回答している人は、恋愛経験がなく、実際に恋愛がどういうものなのかまだ知らないから、漠然と恋愛に対するイメージが良くないだけなのかもしれない。

３．自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

〇自治体の結婚支援の取組を知っていたか。知っている人は何で知ったか。どういう印象を持っているか。知らない人は自治体の結婚支援と聞いて、どんなイメージを持ったか。どういう人が利用しているイメージがあるか。

〇複数の自治体取組を紹介したが、興味があるもの、利用してみたいものはあるか。その内容と理由は何か。反対に興味がない、参加したいと思わない取組はあるか。その内容と理由は何か。

（各活動を自治体が実施していることを知っていたか。）

- ○ AIマッチングシステム： 2/4名
- ○ 結婚支援ボランティア： 0/4名
- ○ 婚活イベント： 0/4名

- AIマッチングシステムを使おうとは思わない。利用者が事実と異なる情報を登録することで、正当でないマッチングがなされることもあると思う。自治体の強みを生かして、住民情報などを登録できれば信ぴょう性が高くなるが、プライバシーの問題が生じると思う。
- 良い人は対面で出会っている可能性が高いので、AI マッチングを利用する人はよほど困っている人なのではと思ってしまう。自分は、インターネットで AI マッチングシステムのことを知ったが、酷評していた。真面目に利用している人同士はマッチするかもしれないと思うものの、やはり良い人の大半は既に対面で出会っていると思う。
- 他の民間企業のアプリより信ぴょう性があるので、将来出会いに困ったら使いたいと思う。
- 自分の住んでいる自治体がやっているかどうかは知らない。AIを活用したマッチングシステムは、民間企業のアプリでも自治体のアプリでも仕組み自体は変わらないと思うので、不安に思う。結婚支援ボランティアや婚活イベントは対面で出会う仕組みとなっているので、今後出会いに困ったら利用したいと思うかもしれない。
- 自治体が実施している AI マッチングシステムは信ぴょう性が高いと思うが、登録者数が有名な民間企業のアプリより少ないと思う。今後、登録者が増えてきたら自治体のアプリを利用するかもしれない。結婚支援ボランティアと婚活イベントについて、自分のスペックに自信がない人が対面やオンラインセミナーに参加できるのか疑問である。恥ずかしいという気持ちが大きいので、匿名や顔を出さない形でも良いのであれば、

参加しようと思うかもしれない。結婚したいという気持ちを持って行動するのは良いことなので、周りの目を気にせず気軽に参加できるようなれば良いと思う。

〇自治体の結婚支援について、「地元で出会えるのがいい」という声がある。地元での出会いを希望 するかどうか、ご自身や周囲の人はどうか。

- 地元に戻ってくるのか分からないし、相手が相手自身の地元に戻りたいと思っているかもしれない。地元で出会うと地元に戻ってこなければならなくなるが、地元で活躍したいという気持ちがないので、あまり興味が持てない。
- ニュースで、岡山県のある自治体が同窓会の開催に補助金を出していることを知った。同窓会での出会いをきっかけに交際・結婚する人がいるとのことだった。同窓会の参加者は、地元の中学校・高校でお互い知っている人なので、初めて会う人より安心感がある。もし学校が違う相手でも、地元という共通点がある分、安心感があるのではないかと思う。
- 自分は地元で出会わなくても良いと思っている。田舎に住んでいるので、母数が絞られて出会いの難易度が上がり、自分の首を絞めることになりかねない。相手が他県出身の場合、相手の実家に帰った際にレジャーを楽しむことができるなど、相手の地域の魅力を楽しむことができる。
- 同窓会などで周りに冷やかされて地元の人と顔を合わせづらくなるのが嫌なので、自分も地元が違う人か一緒の場合でもコミュニティが違う人がいい。自分の地元は人が少ないので、一瞬で噂に広がってしまう。個人の幸せである結婚について、周囲の人によく知られているのは恥ずかしい。

４．ライフプランニング支援についてどう思うか。

〇これまでライフプランニングについて学ぶ機会はあったか。 学ぶ機会があった人は、どんな内容だったか、それはいつ頃か 。ライフプランニングについて学んだことで、前向きになったことは何か。

- 中学生のときにおもちゃを作って幼稚園に訪問するイベントが予定されていたが、新型コロナウイルスの影響で中止になった。
- 以前、乳幼児との触れ合い体験が予定されていたが、同じく新型コロナウイルスの影響で中止になった。その代わりに折り紙の六角返しを幼稚園にプレゼントをする企画があり、幼稚園児が一生懸命書いてくれたお礼の手紙を見て温かい気持ちになった。こどもと触れ合う機会として良かった。

〇ライフプランニングのなかで、どんな内容の話を聞いてみたいと思うか。またその理由は。

- 両親が結婚や出産後の具体的な支援制度を探すのに苦労したと言っていた。出産や子育てで大変なときに、どんな支援があるのか教えてくれる支援があれば良いと思う。
- 学校の家庭科の授業などで、結婚や子育ての楽しさを教えてくれればいいと思う。結婚を魅力的だと思ってもらわないと、自分は一人で楽しく生きられたらよいと思う人が増えると思う。学生の時に結婚を意識できるような教育プログラムがあれば良いと思う。

５．上記以外に、結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

- 自分の住んでいる地域では、自治体から 18 歳になる年度末まで使えるパスポートを配布され、協賛店で提示すると代金を 5%割引いてくれるなどの経済的な支援を受けられる。さらに、パスポートを利用するとき、店員さんとの会話を通じて、「自分は受け入れられているな」という安心感を得ている。他の地域にもこのような制度があればよいなと思う。
- 親を事故などで亡くしてしまった世帯に対する支援を手厚くしてほしい。例えば、大学進学時に子供に奨学金を利用せずに済むような環境にしてほしい。親が亡くなっても、こどもたちが十分な教育を受けて社会に出られるような支援があれば良いと思う。
- 育児支援や児童手当など、既に子育てしている世帯を対象とした支援が多いと感じている。こどもを持つことに対する経済的な不安が原因で、結婚に至っていない人を対象とした支援があると良いと思う。マッチングアプリなどは自分に自信がない人たちはそもそも利用しないと思う。安心してこどもを産んでもらえるような経済的支援があると良いと思う。

以上

【対面】D 班（大学生世代５名）

１．将来、結婚したり子育てしたりしたいと思っているか。

〇結婚をしたい/したくない、こどもをもちたい/もちたくない、と思うことについて、なぜそう思うか。

〇希望する結婚年齢／ 希望する出産年齢となぜそう思うか。

〇結婚や子育てに対するイメージ、得られるもの/失うもの、メリット/デメリットとして思い浮かぶことは何か。

- 結婚したくないと思うが、迷っている。現段階でこれからどうしたらいいかわからなくて不安の要素が大きい。子育ては、こどもがいることをイメージして、「したくない」寄りで迷っている。金銭面よりも、パートナーが誰かと、どうしたらいいか知識面で身についていないのが未知数なので不安である。
- こどもが好きで欲しいので、結婚したい。また、自分が老いたときに独りはさみしいので結婚したい。結婚でないパートナーという道もあると思うが、婚姻関係がいいと思っている。こどもは 1 人でもいいが 2 人欲しい。仕事もしたいので 30 歳くらいでこどもが欲しい。
- 将来、孤独になるより家族がいる方がいい。こどもは 2 人欲しい。何歳で欲しいとまではイメージできない。
- 結婚は理想的にはしたいが、現実的にはしたくないというのが正直な意見。理由は、結婚という 1 つの工程を踏むだけで、ありとあらゆるお金と責任を伴うことになるから。一度結婚したら、そのまま結婚を続けるか、別れるかという風に、人生が二択に絞られて肩身が狭くなる感じがしてしまう。結婚することで新しい楽しい人生もあると思うから、理想的にはしたいが、現実的には結婚したくない。
- 理想は 25 歳で結婚したい。いま就職活動をしているが、就職で実家を離れたら独りになる。知り合いがいない地域で結婚したとして、その後どうなるんだろうと考えてしまうと不安が大きい。結婚そのものも不安だし、子育てが仕事と両立できるかという不安もある。
- 子育てでは、家族が増えるというとんでもないメリットがあるが、一方、結婚してこどもがいる自分の兄の世代を見ていると子育ては大変そう。また、結婚していなくてこどもがいない人も増えているので、孤独で、相談して頼れる人が少ないと思うと不安が大きい。
- 自分は転勤のない都内勤務を想定している。結婚して限られたエリアの中で生活していくことを考えると仕事と結婚の両立が難しくなるという不安がある。転勤で地方に行くとパートナーの仕事やこどもの環境にも影響するので、それを考えると結婚・子育てに踏み込めない。
- 転勤が多い仕事だと、単身赴任という道もあると思うが、家族と離れてしまうのでデメリットも大きいと思う。就活の時に、転勤が多い職業は選ばないと思う。
- 結婚を考えると、転勤や異動がなさそうな就職先が良さそうだと思っている。結婚する、しないにかかわらず、転勤があってもエリア指定があるとか、あるいはテレワークができる企業がいいと思うので考えていきたい。

〇結婚や子育てにおいて重要な要素はどんなものか。

- １つ目はパートナーとの色々な価値観が合っているかどうか。２つ目は結婚生活や子育て生活をしっかり相談できる環境があるか。ライフデザインというと大げさだが、結婚や子育てについて 1 から教えてくれ、道しるべやアドバイスをくれる場所があるといい。例えば、子育て本はありふれているが、本では個人的なことは聞けないので、身近に個人的な相談ができるところがあるといい。

- パートナーとの価値観があっているかは大事。自分の家族もパートナーと合うかは結婚しないとわからない。結婚してからだともう遅いので、結婚に踏み込めない。また、仕事環境も重要。育休や出産後の家族に対する支援が具体的でないと困る。企業からの子育て支援も結構ほしい。その 2 点が結婚への不安を大きくしている。パートナーとの価値観のすり合わせもやっておくべきだと思うが、あまりそういう情報がない。
- 結婚も子育ても初めてのことだらけ。知識がなく経験することになる。パートナーとの価値観のすり合わせも重要だし、どこで結婚するかもわからないし、周りに頼れる人がいるかもわからないので、仮にこどもを産んだときになんでも相談できる環境があると助かる。そうすると不安が払しょくできると思う。
- すぐに行ける距離に相談できる環境があるといい。具体的には電車やバスに乗っていく必要がないところにあるといい。また、社会的に結婚子育てを応援してくれるような環境があるといい。育児休業や金銭支援の制度もあるとよりよいと思う。
- 相談できる環境はほしい。共働き世帯が多くなってきており、育休も制度としてはあるが、取得率が課題で男性側がとれないことも多いと聞く。企業は男女どちらとも育休を取得しやすいようにし、夫婦で子育てをするのが大事。また、こどもが生まれてからの金銭支援も大事だが、若者の金銭的負担を減らすことも大事。子育て支援のために増税をされたら、若者は結婚自体が無理になってしまう。結婚する前の若者を支援することも大事である。
- 結婚や子育てで大事にしていることは、自分と違う意見が出てもいったん飲み込むこと。初めて会った人と雑談をするとき、自分が言ったことに対して、しっかりコミュニケーションを取ってくれて、価値観を飲み込んでくれるかにより、その先の関係になるかにつながると思う。大学などカジュアルなコミュニケーションの場でもそうした考え方を持っている。聞き手と話し手にどちらにもなれる人かどうかが、友達という視点でも男女問わず大事である。

＜育休取得について＞

- 育休の期間について、北欧は 1 年や 2 年 など年単位で取れる。少なくとも半年は育休が欲しいと思うが、希望すれば年単位でとれるといいと思う。産まれた時から世話をしないと男性はパパである自覚が出ないと思う。赤ちゃんの時から関わる機会を夫婦で持つことが大事だ。
- 男性の育休取得率はあがっているが、2 週間など短い。自分が子育てをすることをイメージしても、おむつ替えなど 1 、2 の知識を持っただけで終わってしまいそうである。それではパートナーの苦労もわからないし、こどもとどう向き合って育児していくかも考えづらくなりそう。1 － 2 週間で仕事に戻ると育児教育についてパートナーと考える時間も短い。最低でも育休は半年は必要だろう。
- 男女とも育休期間が 1 年は必要と考えている。こどもを産んで 1 週間だけ育休を取得したとしてもそのあとは女性が一人で世話をするのは苦労が大きすぎる。こどもと向き合う時間に差がありすぎて、子育て中も知識や考え方にギャップがすごいと思う。今後のこどもの人生にも影響すると思うので、最低 1 年は育休の時間を持つといい。育休は父母同時に取得することをイメージしている。父母で交代で休暇をとるとすると、いきなりどう子育てしていいかわからない、ということもありそうなため。育休を同時に取得して、そのあとさらに休みたいパパ、ママがいればさらに有休を取得するということでいいのではないいか。
- 最低でも 1 年は育休を取った方がよい。夫婦で同時に取るべきだと思う。女性が長く子育てに従事して、

男性が数週間しか育休をとらないと、子育てへの責任感に違いが出ると思う。その違いはトラブルを生む。休日に、男性が家事をしたとしても、女性がふだん家事をしていたら「平日ももっとやってよ」と思うだろう。たまに男性が行う家事が不十分だと、ふだんやっている分、女性は気になりストレスになってしまいそう。また、ふだんから家事・育児をしていないと「そう簡単に休みがとれない」というようなパートナーからの言葉も家事・育児に対して無責任に感じてしまうと思う。夫婦で同時に１年の育休をとれば、男性も女性も家事や育児の大変さなどがわかるようになる。

- 夫婦で同時に１年以上、あわよくば２～３年間の育休がとれるといいと思う。１年で子育てが済むわけではないので、社会的にサポートする意味でも１年より長く休みをとれる方が良い。一度休むと復帰するときのハードルが高いので、最初の何年か育休を取ったあとは、勤務に慣らすために週１回から少しずつ、１年以上かけて勤務日数を増やしていくようにできると本人の負担も減るし、こどもにとってもいいと思う。
- 夫婦は１年間、必ずどちらも育休を取得できるようにする方が良い。そのあとの社会復帰については、キャリアが１年空いてしまう分、男性からしたら職場での立場でもつらいということがあると思う。育休の取得ハードルをもっと下げるべきだと思うし、復帰後のサポートもしっかりすれば、誰もが育休をとり、復帰もしやすい社会になっていくと思う。
- 男性の育休取得率が低い根本の原因は、会社の圧が怖く、取りづらい雰囲気があるという悪しき習慣があるのだと思う。一度育休を取ると会社の出世などの流れから取り残されることになるので、育休を取得しやすい雰囲気づくりが大事。「こどもが産まれたから育休を取得しないといけない」といった感じになると良い。根本の風潮を正していかないと、育休取得率はいつまでたっても伸びないのではないか。
- テレビドラマでは出産のタイミングで父親が駆け込むというシーンがある。出産をするその瞬間でなく、母親がつらい出産の準備段階から父親が一緒にいるというシーンを撮った方がいい。こどもが１歳くらいであれば、幼稚園や保育園のお迎えにちゃんと間に合う時間に退社できる会社の雰囲気や制度があるといい。
- 育休はこどもが１人目のときは取得しやすいが、２～３人目になると取得しにくいと聞く。育休を１年取得するのが２人分になると、キャリアでは２年のブランクができることになる。育休を取って、復帰して、また休む、ということを考えるとサポートが大事。こどもの人数によらず、妊娠報告したら休まないといけないということを父親にも母親にも制度化し実際に休みを取れるようにすることが大事だと思う。

〇どういったコミュニティの人と結婚したいか。職場恋愛や学校内恋愛はハードルが高いか、あえて別のコミュニティを選ぶのか、社内結婚の方が仕事への理解があって良いと考えるか。

- アルバイト先は同じ仕事をしていて、忙しい時間も過ごすので人間性が出る。そんなときに価値観の合う・合わないがわかるので、そこで関係を深めていくことができる。自分に余裕がないときに本性が出るので、事前に知っておく機会があるだけでもいいと思う。
- 大学とサークル。本人だけでなくて友人関係も人となりを表すと思っている。友達にしても恋人にしても、色々な人と関わる場面を見て、自分が相手の友達とも合うかを知るのが大事。
- アルバイト先や大学。一緒に同じことをやる機会があるのが共通点。仕事の丁寧さなどに人の価値観が出るので、育児している姿もイメージできそう。人の働き方、考え方がわかるような機会があるといいと思う。
- 中学高校はクラス単位で活動をするが、大学になるとそういう機会がない。大学でも授業っぽさを感じさ

せずに、みんなが取り組めるワークやコミュニティがあるといい。大学に限らず、社会生活でも仕事っぽさを感じさせず一緒に楽しめる何かがあるといい。大学に入ってから小中高のグループが大事だったと気付いた。

２．自分や周囲の人が、結婚しない・できない・しようと思わないのは、何が要因だと思うか

- 一人でいるのがすべてはないと伝えていくことで、結婚のイメージを持ってもらうことができると思う。
- 結婚したくないという人は２タイプあると思う。①今が充実しているから独身のままでよく、結婚という選択肢が入らなくてもいいというタイプ。②結婚することで伴う責任をしがらみに感じ、どうせ別れるなら結婚しない方がいいというタイプ。②については、こうすれば結婚後にトラブルにならないといういいアイディアがあれば、みんな結婚すると思う。
- 結婚したくないと断言する人はどこかで「結婚できない」と思っているからこそ、結婚したくないというのだと思う。「結婚したらこういう幸せがある」というポジティブなことを身近に知る機会があり、前向きになれる言葉や経験があると、結婚に対して前向きになってもらえると思う。結婚・子育ては早ければ高校から考えるはじめる人もいると思うが、大学生くらいで考える人が多いと思う。大学の講義で結婚のメリットをインプットする機会があれば、その後の人生でも結婚や子育てへの考え方が変わってくるかもしれない。
- 結婚や子育ての良さを伝えるのは大学生の時期がいいと思う。社会人になって働きはじめて、恋を忘れたころもいいかもしれない。ランチタイムに「今日は結婚や子育てについて話そう」など気軽に話せると良さそう。
- 結婚のイメージがつきはじめる大学生のタイミングがいいと思う。また、新入社員となったタイミングでも結婚に対する１時間の講義をするといいのではないか。結婚経験者から結婚生活について話してもらえれば、結婚と仕事を両立できるということを思ってもらえそうである。

３．ライフプランニング支援についてどう思うか。

〇これまでライフプランニングについて学ぶ機会はあったか。学ぶ機会があった人は、どんな内容だったか。それはいつ頃か。ライフプランニングについて学んだことで、前向きになったことは何か

- 高１のとき、１年間「探求」という授業があって仕事について調べる時間はあった。高２と高３では、生徒の親が仕事について話すキャリア教育の時間があった。しかし、家族に関して学ぶことはなかった。
- あるにはあったが、そんなに記憶がない。足りないところはあると思う。
- ライフプランについて学べる場は少ない。学べる場があったとしても、わざわざその場まで足を運ぼうと思わない。足を運ばなくても、パートナーと価値観を確認しあえる「価値観チェックシート」のようなものがこども家庭庁 HP にあれば、ワンクリックでパートナーとすり合わせができる。
- 「価値観チェックシート」をつくることに賛成。
- 「価値観チェックシート」をつくり、こども家庭庁 HP にリンクを作るといいと言ったが、そもそも存在を知らないとアクセスしないと思う。役所など、人生の時々で必ず行かないといけない場所に置くといいと思う。婚姻届をもらいにいくときに配布されたり、結婚情報誌の付録にしたり、結婚相談カウンターに置いたりするなど、目に入るところに置くようにしたい。手に取りやすさというより、そもそも目に入って知っているかどうかで浸透しやすさが変わってくると思う。
- 自分の価値観は何らかの機会がないと知ろうとも思わないし、知り方もわからない。何かしらの授業で

色々な価値観を知ってみようという授業があればよい。自身の価値観をわかっているのとわかっていないのでは、パートナーとの関わり方も違ってくると思うので、あらかじめ知ることができると良い。

- 就活のときに強み・弱みを自己分析するが、わかるのはあくまで仕事に関する価値観である。それと同じように人生に対する価値観の分析ができるといいのではないか。ふだん意識してない人にも半強制的に取り組んでもらえるようなものがあるといい。
- 結婚や子育てについて学ぶ機会はないので、日常生活のなかで、自分がどういう価値観なのか知ることができる取組があるといい。

４．自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

- 国や自治体が結婚支援をしていることを知らなかった。
- まず結婚支援の取組について検索するのが大きなワンステップ。婚活・マッチングアプリがたくさんある中で、わざわざ自治体名で検索しない。インフルエンサーに頼んでサービスを広めてもらうのがいいのではないか。
- 周囲に 30～40%くらいはマッチングアプリを使っている人がいる感覚である。アプリを入れてもすぐマッチングしないという理由で使わなくなる人もいる。マッチングしないと労力がむだになる。行政がアプリばかり支援するのも違うと思っていて、他にもやった方がいいことはあると思う。
- 大学生の段階で結婚について考えると自分とも向き合える。多様な価値観があることを知ることができる授業をやることも必要かなと思う。
- 大学は同じ年代の人が何百人と集まり、似たような価値観や性格を持つ人がグループを作る。高校までに多様な価値観を持つ人の中で出会いを見つけないと、大学は新しい出会いがないと考えてしまう人も多いと思う。結婚支援を利用する人は結婚に対するモチベーションが高い人だと思うので、足を運ぶほどでもないと考える人にどうアプローチするかが大事。モチベーションが高くない人に参加してもらうには、職場や大学などで行事として入れるのがいいのではないか。言い方は悪いが、強制的に参加してもらえれば色々な価値観を知ることができる。大学のカリキュラム化までするなら相当踏み込む必要があると思う。
- 結婚や子育てに関する情報発信を大学のカリキュラムに盛り込むという意見があったが、結婚を専門にしている教授はあまりいないので、学外から講師を呼ぶことになると思う。大学は出席すれば単位になるというメリットを盛り込んで、講義っぽくない感じでやれると楽しいと思う。
- 結婚支援の利用が自由だと、大多数は支援を利用しないと思う。国として結婚を支援することが重要であれば、自分の価値観を知ってもらい、人と出会ってもらうという方向性に進めていく必要がある。
- 主体的に参加してもらう方がいいのはわかっているが、結婚支援等のイベントに参加したら特典があるようにしてはどうか。主体性のある人は自分たちでも結婚・子育てをどうにかできると思うので、主体的でない人に興味を持ってもらうのが大事だと思う。
- 結婚に関する情報発信を大学のカリキュラムとするほかにも、SNS でインフルエンサーを活用して PR し、結婚に対するイメージを変えていくのがよいのではないか。インフルエンサーとコラボすると、内容関係なしにたくさんの人が見てくれる。発信は、キーワードよりも発信者が誰かということが大事。
- 発信するときは堅苦しくない言葉を使用するべき。結婚に対して堅苦しい言葉を使うと、「もう知っていることでしょ」と偏見を持たれるかもしれない。有名なインフルエンサーを起用して結婚に対する雰囲気づくり

をしていくことはできると思う。

- 専門の資格を持った人がライフデザインについて話をしてくれるといいと思う。
- 価値観チェックシートのほかに、行けば結婚・子育てについて何かのアドバイスがもらえるというプラットフォームがあるといい。相談所にいっても空いていないとか、役所に担当窓口がないとかだと足を運びづらい。ここにいけば何とかなる、という相談しやすさに特化したプラットフォームがあり、相談相手が有資格者だといい。

以上